

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.9.5 No. 114 連絡先 FAX 042-555-1911



## ねばり強いたたかいこそが、基地撤去の力

去る 8 月 27 日、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の総会が開催されました。記念講演で小泉親司氏は「辺野古のたたかいも 1996 年当初は 16 人だったが、座り込みは 16 年間続き、新基地建設は、にっちもさっちも行かなくなっている」と語り、横田の座り込み行動を激励しました。(以下感想的に。)



## 航空自衛隊横田基地の新設は、府中からの単なる移転ではない

自衛隊は戦争に欠かせない軍事情報を、28 基のレーダー基地から収集しています。戦後はレーダー基地も米軍に接收されましたが、やがて航空自衛隊に移管されました(現在、共同使用もあり)。自衛隊の軍事情報は、府中の航空総隊司令部の作戦指揮所に集中されてきました。

米軍再編で日米の情報共有がうたわれ、航空自衛隊横田基地の新設で軍事情報がすべて横田に集中されることに。航空自衛隊横田基地の新設は府中基地からの単なる移転ではなく、軍事情報の米軍への集中化なんですね。(写真提供：長崎県平和委員会 西部航空方面隊 西部航空警戒管制団 第 15 警戒隊 福江島のアンテナ)



## 米軍と自衛隊の軍事一体化は、対等なものではなく、自衛隊の従属的一体化

横田基地に設置された日米共同統合運用調整所も、「トモダチ作戦」も対等に見せかけていますが、実は自衛隊の従属的一体化です。アメリカの戦略を「共通の戦略目標」とし、自衛隊の海外派兵も日米共同作戦です。ジプチとは地位協定を結び、初の自衛隊海外基地を建設、アメリカの要請です。アメリカの対外戦略に、日本政府が同調しているのは危険だと思いました。

近距離で人を殺せる都市型訓練を自衛隊が実施している話は、イラク攻撃と重なりました。

### 航空総隊直轄部隊 (航空総隊 HP を参照。下記の【府中】は、今年度中【横田】になる予定)

- 偵察航空隊：RF-4 偵察機を装備し、航空偵察活動を任務としている。【百里】
- 警戒航空隊：E-767 を浜松に、E-2C を三沢に装備し、早期警戒を任務としている。【浜松、三沢】
- 作戦情報隊：航空作戦情報に関する業務を実施する。【府中】
- 防空指揮群：航空情報の収集及び関係部隊等への提供等を実施する。【府中】
- プログラム管理隊：航空自衛隊唯一の兵器システムに関するソフトウェア専任部隊で、バッジ・システム及びこれらに接続する関連システムの運用プログラムの管理業務を行う。【入間】
- 航空総隊司令部飛行隊：U-4、T-4 型機等を装備、航空総隊の各種支援飛行等を任務とする。【入間】
- 飛行教導隊：特殊迷彩塗装を施した F-15 を装備し、航空総隊隷下の戦闘機部隊における戦技の向上及び新たな戦技の研究等を任務とする。【新田原】
- 高射教導隊：高射関連の教導部隊を浜松に、基地防空関連の教導部隊を千歳に置き、戦技向上及び研究を行い全国の高射、基地防空隊に対する教導を実施する。年次 射撃訓練の支援を行っている。【浜松】
- 基地警備教導隊：平成 23 年度より基地警備関連の教導部隊として基地警備に関する調査研究を行うとともに、基地警備要領の普及及び教導等を実施している。【百里】

## ノーモア広島 ノーモア長崎

(No. 114 の裏面)

66年前の8月6日、広島に1発の原爆が投下され、この年の末までに約14万人の命が奪われました。さらに8月9日、長崎に1発の原爆が投下され、この年の末までに約7万人の命が奪われました。

核兵器は、大量殺戮兵器です。核兵器は廃絶しかありません。

そしてこの1年間、新たに死亡が確認されたのは、広島で5,785人で、原爆死没者は275,230人になりました。長崎では3,288人が亡くなり、原爆死没者は155,564人になりました。

被爆者健康手帳を持つ被爆者は今年3月末で、219,410人です。

2011年原水禁世界大会は、開会総会も閉会総会も、7,800人が参加しました。国際的には、国連のパン・ギムン事務総長がメッセージを寄せ、6カ国の政府代表、アラブ連名の代表、草の根で活動する海外代表を合わせて25カ国・88人が参加しました。

### …………… 今年の夏、ラジオ、映画、本で出会った人々 ……………

長崎の原爆の日・ラジオ特集で、俳人・松尾あつゆきさんの孫の平田周さんが、松尾さんの思いに迫る番組を聞きました。(以下被爆直後の句、HPより)

#### いまわのきわに一原爆句抄 松尾あつゆき

★八月九日 長崎の原子爆弾の日。

我家に帰り着きたるは深更なり。  
月の下ひっそり倒れかさなっている下か

★十日 路傍に妻と二児を発見す。

重傷の妻より子の最後をきく(四歳と一歳)。  
わらうことをおぼえちぶさにいまわもほほえみ  
すべなし地に置けば子にむらがる蠅  
臨終木の枝を口にうまかとばいさとうきびばい

★長男ついに壕中に死す(中学一年)。

炎天、子のいまわの水をさがしにゆく  
母のそばまではうでてわろうてこときれて  
この世の一夜を母のそばに月がさしてる顔  
外には二つ、壕の中にも月さしてくるなきがら

★十一日 みずから木を組みて子を焼く。

とんぼうとまらせて三つのなきがらがきょうだい  
ほのお、兄をなかによりそうて火になる

★十二日 早暁骨を拾う。

あさぎり、兄弟よりそうた形の骨で  
あわれ七ヶ月の命の花びらのような骨かな

★十三日 妻死す(三十六歳)。

ふところにしてトマト一つはヒロちゃんへこときれる

★十五日 妻を焼く、終戦の詔下る。

なにもかもなくした手に四枚の爆死証明  
夏草身をおこしては妻をやく火を継ぐ  
降伏のみことのり、妻をやく火いまぞ熾りつ



#### 二重被爆の山口彊さんの「映画」と「本」

ドキュメンタリー映画「二重被爆」(2006年)「二重被爆 語り部山口彊の遺言」(2011年)は、残された命を「核廃絶」に賭けた山口さんを追います。地元や国連、海外の学生にも「核兵器をなくすために、皆さんの力をお貸しください」と頭を下げます。パリの大学で、「二重被爆して長生きしているのは矛盾している」と言われたことも。強い信念を持った人です。

本は、山口さん(1916・大正5年生れ)の飾らぬ自分史です。彊(つとむ)少年8歳の時、母親が自殺。戦時中、幼い長男が死亡。造船所勤務で出張先の広島で被爆、帰った長崎で被爆しました。原爆のこと、戦後どう生きたのか、読んでほしい1冊です。(以下、山口さんの句)

蔵の梁に生まれて燕(つばめ)の子は鳴けり  
この梁に垂れて死にしわが母  
大広島炎え轟(とどろ)きし朝開けて  
川流れ来る人間筏(いかだ)  
うち重なり焼けて死にたる人間の  
脂滲(にじ)みし土は乾かず

#### 105歳 兵事係の証言から「赤紙と徴兵」

滋賀県の旧東浅井郡大郷村(現長浜市)役場で兵事係をしていた西邑(むら)仁平さんが、戦後60年あまり、焼却命令にそむいて自宅で密かに持っていた兵事書類から、丹念に村人を追っていきます。著者は吉田敏浩氏。「てつきよの会」総会で講演をお願いしたことがあります。

